

2017年度・教会史シラバス

丸山悟司

I.目的とねらい

- 1) 教会史全体の「流れ」をつかむ
- 2) 教会史上の主要な人物、また主要な出来事について理解を深める
- 3) 教会史の立役者たちの神学的・教理的背景を理解する
- 4) 自らが属する教派的伝統を、教会史的視点から客観的に見極める
- 5) 教会史上の人物、出来事が、現代に投げかける課題、チャレンジについて考える

II.テキスト

- ・前期：フスト・ゴンサレス、『キリスト教史ー上巻』, 新教出版社, 2002年
- ・後期：フスト・ゴンサレス、『キリスト教史ー下巻』, 新教出版社, 2003年

III.講義予定（前期）

1. 古代教会（1）：エルサレム教会
2. 古代教会（2）：異邦世界への宣教
3. 古代教会（3）：国家との対立
4. 古代教会（4）：信仰の擁護
5. 古代教会（5）：三世紀の迫害と棄教者の問題
6. 帝国の教会（1）：コンスタンティヌス大帝
7. 帝国の教会（2）：反動としての修道院制度、ドナトゥス派
8. 帝国の教会（3）：アレイオス論争と公会議運動
9. 帝国の教会（4）：ヒッポのアウグスティヌス
10. 帝国の教会（5）：東方教会
11. 中世の教会（1）：修道院制度と教皇制
12. 中世の教会（2）：教会の墮落と対イスラム戦争
13. 中世の教会（3）：中世キリスト教の黄金時代
14. 中世の教会（4）：宗教改革への胎動
15. 中世の教会（5）：ルネサンス時代の教会

IV.講義予定（後期）

1. 宗教改革期（1）：改革への希求
2. 宗教改革期（2）：マルティン・ルター
3. 宗教改革期（3）：ルターの十字架の神学
4. 宗教改革期（4）：ジャン・カルヴァン
5. 宗教改革期（5）：ツヴィングリと再洗礼派運動
6. 宗教改革期（6）：カトリック宗教改革
7. 反動の時代（1）：ピューリタン革命と正統主義
8. 反動の時代（2）：合理主義と聖霊主義

9. 反動の時代（3）：第二の宗教改革としての敬虔主義
10. 反動の時代（4）：アメリカにおける大覚醒
11. 反動の時代（5）：第二次大覚醒と反動としての神学
12. 近代・現代（1）：プロテスタント神学とカトリック神学
13. 近代・現代（2）：エキュメニカル運動
14. 近代・現代（3）：ヨーロッパ、合衆国におけるプロテスタント教会
15. 近代・現代（4）：現代の聖霊派、福音派

クラス紹介：

2017年は、私どもプロテスタント教会の伝統に生きる者にとっては、宗教改革から500年目となる、記念すべき年に当たります。このクラスでは、古代からその宗教改革までの教会の歩み、そして、宗教改革から現代までの流れを追い、歴史的視点に基づいて、私たちの信仰の立ち位置を確認します。